

ピレチノール

【この薬は？】

販売名	ピレチノール PYRETINOL
一般名	アセトアミノフェン Acetaminophen
含有量 (1g 中)	1g

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、解熱鎮痛剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、熱を放散させて熱を下げる作用や、痛みの感受性を低下させて、痛みをやわらげます。
- ・次の目的で処方されます。
 - (1) 下記の疾患並びに症状の鎮痛
頭痛、耳痛、症候性神経痛、腰痛症、筋肉痛、打撲痛、捻挫痛、月経痛、分娩後痛、がんによる疼痛、歯痛、歯科治療後の疼痛、変形性関節症
 - (2) 下記疾患の解熱・鎮痛
急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）
 - (3) 小児科領域における解熱・鎮痛
- ・この薬は、指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- この薬は、肝臓に重篤な障害（からだのだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、皮膚が黄色くなるなど）があらわれることがあります。この薬を高用量（アセトアミノフェンとして1日量1500mgを超える場合）で長期間使用する場合は、定期的に肝機能検査が行われます。
- アセトアミノフェンを含む他の薬（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります。）を使用している場合は、医師に伝えてください。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・消化性潰瘍のある人
 - ・血液に重篤な異常のある人
 - ・肝臓に重篤な障害のある人
 - ・腎臓に重篤な障害のある人
 - ・心機能に重篤な障害のある人
 - ・過去にピレチノールに含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
 - ・アスピリン喘息（非ステロイド性抗炎症剤などにより誘発される喘息発作）のある人または過去にアスピリン喘息があった人
- 次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
 - ・毎日多量に飲酒している人
 - ・絶食・栄養状態が悪い・摂食障害などによるグルタチオン欠乏の人、脱水症状のある人
 - ・肝臓に障害がある人、または過去に肝臓に障害があった人
 - ・過去に消化性潰瘍のあった人
 - ・血液に異常のある人、または過去に血液に異常のあった人
 - ・出血しやすい人
 - ・腎臓に障害がある人、または過去に腎臓に障害があった人
 - ・心機能に異常のある人
 - ・過去に過敏な反応を経験したことがある人
 - ・気管支喘息のある人
 - ・高齢の人
 - ・小児など
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量と回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、飲む量および回数は、次のとおりです。

〔成人の場合〕

〔頭痛、耳痛、症候性神経痛、腰痛症、筋肉痛、打撲痛、捻挫痛、月経痛、分娩後痛、がんによる疼痛、歯痛、歯科治療後の疼痛、変形性関節症の鎮痛の場合〕

販売名	ピレチノール
一回量	300～500mg
一日量	900～1500mg

年齢、症状により適宜増減してください。

〔急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）の解熱・鎮痛の場合〕

販売名	ピレチノール
一回量	300～500mg
飲む回数	原則として1日2回までです。 できるだけ空腹時をさけてください。

1日の最大使用量は、アセトアミノフェンとして1500mgです。

〔乳児、幼児および小児の場合〕

〔小児科領域における解熱・鎮痛の場合〕

販売名	ピレチノール
一回量	体重1kgあたり10～15mgを飲みます。
飲む間隔	次の使用まで4～6時間以上あけてください。 できるだけ空腹時をさけてください。

1回の最大使用量はアセトアミノフェンとして500mgです。

また、1日の最大使用量はアセトアミノフェンとして体重1kgあたり60mgですが1500mgを超えて使用することはありません。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、空腹時をさけて1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・肝臓に重篤な障害（からだのだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、皮膚が黄色くなるなど）があらわれることがありますので、ただちに受診してください。
- ・過量使用の治療薬としてアセチルシステインがあります。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬による治療は、症状を軽減するために行われるものです。
- ・高齢の人や小児などに使用する場合は、患者さんまたはその家族の方も副作用の発現に特に注意してください。特に高熱のある高齢の人や小児、または消耗性疾患の人は、体温の下がりすぎや、虚脱（力が抜ける、意識の低下など）、手足が冷たくなるなどの症状があらわれることがありますので、この薬を使った後の状態に十分注意してください。
- ・この薬は細菌やウイルスなどに感染したことによる熱の症状をやわらげるため、感染症の症状を把握しづらくすることがあります。感染症にかかっている人は、医師の指示どおりに感染症の治療を受けてください。
- ・アセトアミノフェンを含む他の薬（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります。）や消炎鎮痛剤を使用している場合は、医師に伝えてください。
- ・この薬を使用している間は、アセトアミノフェンを含む他の薬（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります。）を使用しないでください。
- ・この薬の高用量の使用によって腹痛・下痢の副作用があらわれることがあります。上気道炎に伴う消化器症状との区別が難しいことがありますので、これらの症状があらわれたら医師に伝えてください。
- ・この薬を高用量（アセトアミノフェンとして1日量が1500mgを超える場合）で長期間使用する場合は、定期的に肝機能検査が行われます。高用量でなくとも長期間使用する場合は、定期的に肝機能検査が行われることがあります。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・アルコールを含む飲食物はこの薬に影響しますので、避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷や汗、めまい、意識の低下、考えがまとまらない、血の気が引く、息切れ
アナフィラキシー	からだがだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸（どうき）、じんましん
中毒性表皮壊死融解症（TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゅうかいしょう（テン）	からだがだるい、関節の痛み、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）、発熱、食欲不振
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん	からだがだるい、高熱、発熱、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、食欲不振、赤い発疹、中央にむ

重大な副作用	主な自覚症状
	くみをともなった赤い斑点、陰部の痛み
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしんせいのうほうしょう	からだがだるい、高熱、皮膚の広い範囲が赤くなる、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、食欲不振
喘息発作の誘発 ぜんそくほっさのゆうはつ	ヒューヒュー音がする、息をするときヒューヒューと音がする、息苦しい、息切れ
劇症肝炎 げきしょうかんえん	発熱、意識の低下、考えがまとまらない、頭痛、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、羽ばたくような手のふるえ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
肝機能障害 かんきのうしょうがい	からだがだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、かゆみ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿が褐色になる
顆粒球減少症 かりゅうきゅうげんしょうしょう	発熱、のどの痛み
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	発熱、から咳、息苦しい、息切れ
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	関節の痛み、発熱、頭痛、膨れあがる感じ、血尿
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	からだがだるい、からだのむくみ、疲れやすい、意識の低下、頭痛、眼がはれぼったい、息苦しい、尿がでない、尿量が減る

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	からだがだるい、ふらつき、冷や汗、関節の痛み、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）、発熱、高熱、からだのむくみ、疲れやすい
頭部	意識の低下、考えがまとまらない、めまい、頭痛
顔面	ほてり、血の気が引く
眼	眼と口唇のまわりのはれ、白目が黄色くなる、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、眼がはれぼったい
口や喉	しゃがれ声、眼と唇のまわりのはれ、吐き気、嘔吐（おうと）、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、ヒューヒュー音がする、息をするときヒューヒューと音がする、のどの痛み、から咳
胸部	息苦しい、息切れ、動悸（どうき）、吐き気
腹部	食欲不振、吐き気、膨れあがる感じ
手・足	関節の痛み、羽ばたくような手のふるえ
皮膚	じんましん、皮膚が黄色くなる、かゆみ、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、皮膚の広い範囲が赤くなる、赤く

部位	自覚症状
	なった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）
尿	尿が褐色になる、尿の色が濃くなる、血尿、尿がでない、尿量が減る
その他	陰部の痛み

【この薬の形は？】

販売名	ピレチノール
形状	結晶または結晶性の粉末 
色	白色

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ピレチノール
有効成分	アセトアミノフェン
添加物	—

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（１～３０℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：岩城製薬株式会社 (<http://www.iwakiseiyaku.co.jp>)

学術部

電話：０３－３６６８－１５７４

受付時間：９：００～１７：００（土、日、祝日を除く）